



知識に「身近感」と「実感」をふきこんで

～生きて働く学力を育てたい～

常盤小学校では、コミュニティスクールや PTA有志の方の力を借りながら  
「常盤まるごと学びレッジ」プロジェクトを進めています。

学校で学習したことをその場所、場所に表示します。下図のようなタイルで子どもたちが学習したことを学校周辺や通学路に「ここですよタイル」で現場表示します。例えば教科書で長さ100mや高さ10mの学習をします。その100mや10mを学校周辺に「学校まで100m」とか「メタセコイアの高さ20m」などと表示します。(右写真)

教科書で学習した100mを身近な場所で実感したり、イラストマップや航空写真で、その100mをながめてみたりすることで、子どもの学びをしっかりと深くしてやりたいとの願いからです。



現場表示タイル

日々、子どもたちが学習していることが、自分の見知っている場所や場面に例示されることで、その子の持っている知識や経験とつながったり、新しい気づきが生まれたりします。そのような実感と気づきが、子どもの理解を何倍にもします。生きて働く力、より使いものになる学力作りを目指しています。

20mの高さの木の前に立ちながら…

「そうなんだ!」「えっなんでなの?」「だったらさ…」と小さな心が「!」「?」「…」と揺れ動く習慣と瞬間をもっと、もっと、つくってやりたいと思います。



学校では主に教科書を使って学習します。教科書を見て、先生の話聞いて大切なことを覚える、やり方を覚える、練習してできるようになる、どれもとても大切な学習です。その学校での学習、教科書やプリントでの学習に「実感や体験、身近感」を添えていくことを今よりもっと大切にしたいと考えています。

今までは「テストができるように… 問題が解けるように… (学んだことが分かる・できる)」が一番大切なことでしたが、今からの学びは、「どうしてかな… この方法はどうかかな… (どう学び、学んだことをどう使うか)」の経験と力をつけてやることも同じように大切になっています。

数日前に校舎前の「100mロード」でストップウォッチを片手に子どもたちが「100m歩くのにかかる時間」を計っていました。1分でちょうど100mだと分かりやすいのですが…。

校長 藤永 靖彦